

〔コラム〕

NUC pre 1956 imprints : 偉大な資料と時代の流れ

“National Union Catalogue pre-1956 imprints” (以下 NUC) をご存じだろうか？ これまでに出版された総合目録としては最大の規模を誇り、全 754 巻にアメリカ議会図書館を含む北米図書館の約 1300 万レコードを収録している。出版社名である Mansell という愛称でも知られる NUC はつい最近まで、目録作成の助として、また所在確認、人名調査等レファレンスツールとして図書館員には必須の資料だった。カード目録を複製し基本記入のアルファベット順で配列されているため、目録の知識がないとうまく調べることができない。そのこともあり三田キャンパスの新館オープン時に 1 階のレファレンスカウンター脇に「全国書誌」というコーナーを設け、大英博物館の目録やドイツの“GV” とともに配架し、いつでもスタッフが利用者の検索のサポートができる体制を取った。1 冊あたりのページ数が 6~700 ページもある NUC がずらりと並ぶ様は一種威厳さえも感じさせられた。

しかし目録がカードから OPAC に変わったように、総合目録はもはや紙で刊行されることはない。

データベースとしてその機能・収録を拡大してきている。NUC が完成した 1981 年には収録されたデータのうち 80% は電子化されることはないだろうと予測されたが、2005 年の“College & Research Libraries” 66 巻 5 号 (に発表された Beall, j. と Kafadar, K のサンプル調査) によると NUC の 73.2% のデータが OCLC の WorldCat に収録されている。NUC に代わる代替手段としての単独のデータベースはまだないが、大部分が WorldCat に、そして各国の国立図書館や総合目録データベース等を統合して検索することも可能になっていることを考えれば NUC を使わない、あるいは知らない図書館員がこれからはもっと増えてくるのかもしれない。書架に余裕があれば NUC を三田キャンパスに残しておきたいが、書庫狭隘化の中でそれもままならない。現在 NUC は白楽サテライトライブラリーで静かに利用を待っている。

まつもと かずこ
松本 和子
(三田メディアセンター課長)

